

作成日 平成 21年 6月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	0191700020		
法人名	有限会社 ケアステーションせたな		
事業所名	グループホーム はるかぜ		
所在地	久遠郡せたな町北檜山区徳島58番地14 (電話) 0137-86-0077		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年5月28日	評価確定日	平成21年6月11日

【情報提供票より】(平成21年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	19	年	5	月	1	日
ユニット数	1	ユニット	利用定員数計	9	人		
職員数	9	人	常勤	6	人,	非常勤	3
			常勤換算	5.4	人		

(2) 建物概要

建物構造	木造		造り	
	1階建ての		1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	(日額) 1,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費(日額) 500円	
敷金	有(円)	(無)	暖房費(日額) 160円	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1	4名	要介護2	3名			
要介護3	2名	要介護4	0名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	89.4歳	最低	86歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	せたな町立国保病院、道南ロイヤル病院、
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームはるかぜは、せたな町役場本庁舎の近くで、田園に囲まれた自然豊かな所に位置している。運営者は、各種福祉事業を町から受託し、地域の人々が健康で安心した暮らしができる町づくりに貢献している。管理者と職員は、利用者の個性を尊重し、一人ひとりのペースにあわせた支援を心がけ、車椅子のない暮らしを目指している。利用者は近隣の方々と交流をもち、安心と安らぎのある暮らしをしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
		前回の改善課題である理念について、職員全員でアイデアを出し合い、地域密着型サービスとしての理念に改善されている。
		今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
		自己評価は、日頃のケアの振り返りや見直しの機会と捉え、職員全員で話し合い作成し、反省と改善に取り組んでいる。
重点項目	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
		自己評価・外部評価・事業所の活動を議題として、年4回運営推進会議を実施しているが、画一的な傾向にあり出席メンバーに苦慮しているため、構成メンバーを広範囲に依頼したり、テーマを設定するなど有意義な会議になることを期待する。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
		家族が来訪した時に声がけをして意見や要望を聴き、記載ノートに記録し、職員全員で改善に向け話し合い運営に反映させている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
		近隣の農家の方々から野菜、くだもの、もち米など頂くことが多く、地域の人と一緒にもちつき大会をしている。利用者は、お返しに芋だんごや手作りのふきんなど差し上げている。敬老会や町内の祭典にも積極的に参加し地域との交流を盛んに行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、地域の一員として、個性を尊重し、安心して穏やかな暮らしの継続を理念にしている		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で検討し作成した理念であり、共に意識しながら、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	神社の祭典や敬老会への参加、地域の人と一緒にもちつき大会などを行っている。利用者は、刺し子の布巾や芋餅を差し上げるなど交流を盛んに行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義とねらいについてチームで話し合い、自己評価を作成している。外部評価で出された課題は、職員のアイデアや意見を取り入れて全員で改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回運営推進会議を実施し、自己評価や外部評価の公表や事業所の活動などを議題にしているが、画一的でありメンバーの出席に苦慮している。	○	農繁期の多忙を思うと察するところもあるが、事業所を理解し参加できそうな方を構成メンバーに依頼したり、テーマを設けて出席した行政職員の話の聴くなど有意義な会議になることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月2回サービス検討会議を地域包括支援センターで実施して、意見交換、情報交換、事例検討などを行い、町と共に質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行のホーム便りで、利用者の暮らす様子や職員の異動などを家族に知らせている。金銭管理は出納簿の写しと領収書を添えて報告し、確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪した時に声がけをして、苦情や要望、意見を聴き、記載ノートに記録し、職員全員で話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を抑える努力をしているが、交代があった場合は、職員間で利用者一人ひとりにあわせた心のケアを大切に支援している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、実践研修やスタッフ研修など外部研修に積極的に参加している。関係障害、環境改善についてDVDを使用して内部研修を重ね、職員は感想文や報告書を作成し、職員間で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の町の介護保険に携わる事業所間でサービス事業者連絡会議があり、勉強会や研修会を実施して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人と家族が事業所を見学し、雰囲気を感じてもらいながらサービスを利用して頂いているが、帰宅希望が出た場合は、職員と一緒に散歩するなど馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が薬草を採取し乾燥させ、体に良いと職員に煎じてくれたり、家事仕事や家庭菜園の作り方など教わることが多くある。職員は人生の先輩として接し、楽しそうに会話をしたりして共に支えあう関係を築いている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者に対し、時間作りや環境作りを心掛けている。買い物やドライブなどは、職員一人に利用者一人で出かけて、希望や思いを自由に話せる雰囲気を作り、可能な限り受け入れ支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人のできることを、できないことを見極めて家族の意見を聴き、カンファレンスの中で担当者と検討し、スタッフで確認しながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には、6ヶ月ごとの見直しとしているが、入院などで状態に変化がある場合は、家族と相談して随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族の状況により、受診支援やお墓参り、我が家に立ち寄ったり、他の施設に入居している家族の面会支援など、本人の要望に臨機応変に対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望で、かかりつけ医には継続的に受診できる。協力医と夜間の対応や相談ができる体制を整えており、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向け、希望する家族には入居時に説明しているが、早い段階から消防署や医療機関と連携をとって受け入れ体制を整えている。職員はカンファレンスの中で話し合い方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々言葉使いに気を付け、プライバシーに配慮しているが、職員間で気が付けば申し送りの時に話し合い改善している。個人の記録は事務所の一定の場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事などの時間は設定せずに、本人のペースに合わせて支援している。その日より、買い物、郵便局、100円ショップなど利用者の希望に添って支援している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、一人ひとりのできること、できないことを把握し、食事の準備や後片付けなどを一緒にしている。また、利用者の中に座り、テーブルを囲み楽しく会話をしながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後からは毎日入浴ができる。その日の体調や気分希望しない場合は、清拭に変えたり日を改めることもあり、入浴を楽しめるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家庭菜園や日常の家事仕事、将棋倒しなど、利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。遠出のドライブや散歩で気晴らしをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、本人の希望で海や花畑を観たり、隣家の田んぼのアイガモと稲の成長を楽しみに出かけており、戸外にでかけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠していないが、夜間は、防犯のため鍵をかけている。居室は施錠していない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、防災訓練と避難訓練、夜間想定を含んだ訓練をしている。居室のドアにある黄色のシールは避難した時の合図であり、避難場所への誘導にはメガホンを用意するなど、消防署と地域の方々の協力を得られるよう働きかけている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立を参考にバランスを心掛けながら、一人ひとりの状態に合わせた食事量と味付け、水分摂取量を詳細に記録し、医師の指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、バリアフリーが完備され、不快な音や臭いもなく、ホーム周りには田んぼや畑が一面に広がり季節の移り変わりを感じることができる。年中行事にあわせて、利用者の手づくりの作品が居間の壁に飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は納戸が広く、自宅から持ってきた日用品や家具が納められ、壁に家族の写真を飾るなど居心地良く過ごせる工夫をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。